

# 地域の特性に応じた 子どもたちにとってよりよい学校教育のあり方と方策について

小規模化が進む中で、今後、どんな教育をすすめていくか。

## 千代田小

- 地域密着型の教育を大事にする。郷土歴史学習、千代田寺子屋などで地元密着の教育地元につながるのがある教育が大切である。あの人がある、あのおばちゃんがある。地元で育った子どもが、地元で生活をする。(例：電気屋、散髪屋、八百屋など)
- 地元のよさを知る教育（街を出て行って初めて地元のよさを知る）、グローバルとローカルが大事。
- 地元を大事にする教育
- 地元の商店、ガソリンスタンドが無くなったら困る。地元の店を利用する教育  
（→ユニクロ栄えて国減ぶ）
- 親と子どもの関係の教育。親の教育も必要。その場所と人など、機会の提供。
- 縦割り授業の充実。他学年との交流で同学年と接しているときの違い、心遣いを学ぶ。

## 長野小

- 教員が児童のことを十分理解し、一人ひとりへの対応が十分できる教育（PTA）
- 地域密着型の学校  
田植え 稲刈り 野菜栽培・脳IQより生活IQ・体験的な学習を増やす  
・生活の場も共有できる人間関係の構築（PTA）
- 児童生徒の数が減少する＝教員の数が減るでは意味がない。（PTA）

## 天野小

- 小規模化のよさ（教師の目が届きやすい・子どもの特性を早く看取ることができる・子どもたちの仲がよい等）を、数値データ等で示していく必要がある。
- 小規模化になっても、学校自身に魅力があれば子どもを通わせることはできる。
- 地域が求める子ども像を、学校でも育てていくように努める必要がある。
- 小規模化のデメリット（人間関係の固定化・子どもの切磋琢磨が少ない、ぬるま湯化等）は、学校での取組みで解消していくことはできる。

## 高向小

- 全校児童数が減り、各学年1学級となってクラス替えもおこなわれなくなった。そこで特に子どもたちの人間関係に目を配り、関係の良い仲間づくりに努める。
- クラスの数も減り、学習面・生活面においても、よりきめ細やかに子どもたちを見ていくように配慮する。
- 学校、保護者、地域が一体になって、一人ひとりの子どもたちを地域の子どもとして温

かく見ていける様に連携を図っていく。

■地域の行事に子どもたちを呼び入れ、地域の大人、ご老人も一緒になった活動をおこなうことにより、地域の一員であるという意識を持たせる。

### 三日市小

■幼・小・中も視野に入れた縦の交流。一人ひとりの個性を生かし、自主的に動くことを教えやすい。(PTA関係)

■密接な関係になっていくので、人どうしのつながりの大切さを学ぶ。小中連携を今以上に充実させ、小中一貫の教育を推進していく。九年間を見据えたカリキュラムを作成し、全職員が共通の意識を持って取り組む。(PTA関係)

■少人数制のメリットとして子ども一人ひとりに関わることのできる時間が増え、手厚い教育ができることだと思います。

■子どもの精神的なフォロー、またその子に合わせた勉強方法など一斉的な教育ではなく、一人ひとりの個性に寄りそうような教育をして頂けたら親としては安心する。また運動会などの盛り上がりたい行事の時は合同にするなど良いと思います。(PTA関係)

■子どもたちに「おもいやりの大切さ」を育む学校教育。現在の小中一貫教育をさらに密におしすすめていく。地域、学校との連携。(子ども見守り隊、PTA、学校運営協議会、教職員) 現在の学校教育で教育委員会がすすめていきたい課題を提示して頂く。(学校運営協議会)

### 加賀田小

■河内長野市立小学校全体を思い、特に南、東部の校区を統合し、中心部に設立する事により規模メリットが出て様々な面で充実が図られると思われる。統合したことにより通学に不便な地域においては、市のスクールバスを運行させる。(CS関係)

■加賀田小学校、加賀田中学校、石仏小学校の3校で小中一貫を成しているが、加賀田小学校は今後6年間ですべて単クラスの学校になってしまうので、もっと交流の輪を広げて、隣接の三日市小学校や南花台小学校とも交流を深めていけば良いと思う。(PTA関係)

■単クラス、少人数化になると、多くの児童と接する機会が減るので、違う学年の交流、小学校の交流、小中の交流を深めて授業を行う工夫が今以上に必要になると思います。公民館、図書館などとの連携で地域との交流を授業に取り入れる事も出来ると思います。先生方、地域の方々の新たな負担にならない様、各団体の簡略化など工夫が必要だと思います。(CS関係)

### 天見小

■「地域総ぐるみの教育」として学校運営協議会が子どもや保護者、学校職員と協働するための「地域の中心的役割」を担っていただける体制がスムーズに図られている教育(\*長年重要視されている地域に開かれた学校教育)

(例：小学校を守るスクラムを組んでいる地域を知る教育の一環として、毎春に「てくてくテーリング」を本校は行っている。子どもだけでなく保護者も積極的に参加することで、天見の良さを校区外にもPRしてくれている。)

(例：大阪府警音楽隊による演奏会に今年度初めて地域住民の方々にも、まちづくり協議会を通じて広報することにより、70名を越える参加者が参加された。このことがきっかけで、学校支援メンバーが増えた。)

■天見小学校が継続して教育の中心と位置づけてきた自然体験学習により科学的な思考と心豊かな人間性を養う教育

(例：1・2年・川あそび、1年・地域の方の田んぼでのどろんこあそび、5年・地域の方の田んぼでの田植え及び稲刈り、4・6年・地域の方の指導による天見川水質調査、6年・地域の方の畑での野菜栽培など)

■人権教育を基盤とした、一人ひとりの子どもの個性を尊重する教育

(例：「周りにやさしい言葉使い」「お互いを認め合う、いいとこさがし」を日常より励行している。今年度はみんなが幸せになるためのアイデアを集めた「ハッピー・プロジェクト」運動を行った。)

■多様性を尊重した、きめ細かな指導による一人ひとりの能力を伸ばす教育

(例：多学年合同学習の中で、児童自ら発展的問題に取り組んでいる。)

(例：6つの異年齢集団・縦割りグループによる天小まつりの児童運営イベント、児童会メンバーが考えた縦割りグループ遊び、毎日行う無言清掃)

■国際化・グローバル化の時代を生き抜く能力を伸ばす教育

(例：河内長野市メディアセンターの指導による外国との遠隔地授業、可能な限り自ら進んで英語をインプットやアウトプットができる英会話学習)

※上記全て、PTA役員及び委員会、学校運営協議会、教職員をまとめたもの

■山に囲まれた豊かな自然環境の中で、他校では出来ない自然体験、自然と接し学ぶことにより、仲間意識生活の知恵を学び、物事の大切さを学ぶ場としていく事。(学校運営協議会)

■小規模校ならではの目配りの行き届いた教育で、「知」・「徳」・「体」の評価のレベルアップを図り、これからも小規模特認校として注目される様に。(学校運営協議会)

## 楠小

■複数学年での校外学習の実施、異学年交流など縦のつながりを深める、30人学級など少人数編成のクラス→教員数確保(教職員)

■たてわりの活動の充実(単学級になれば)

子どもの人数の減少のともない教職員も減っていくのでは、手厚い教育や幅広い活動はしにくいので、大人的人数は変わらずいさせてほしい。→無理?

小中一貫でいくべきかは分からないが、可能であるとすれば、小1校→中1校である美加の台と南花台であれば、校区変えず同一校舎内に小中が同居することは可能なのか!(教職員)

■①小中を統合し、施設一体型の小中一貫教育を推進

②小学校に子ども園を併設し、幼児教育からスムーズに義務教育へ移行できるようにする

③隣接する小学校間での連携授業実施(遠足、修学旅行等)(教職員)

■小中一貫教育の実施、就学前教育(幼・保)及び中学校教育との連携の強化、少人数教育

の推進、ICTを活用した授業の推進、教員の仕事の見直し—外部の活用で教員本来の業務に専念できるようにする。(学校運営協議会)

### 石仏小

■どのようなかたちが望ましいかは分からないが、複式になるのなら、合併というかたちの方がよいと思う。(PTA)

■南花台では、教室を地域の方に活用してもらう状況があった。授業中に、詩吟などが聞こえてくるといった実情もあったが、一方で、子どもとの交流は活性化された。

■学力面を考えるなら、小中連携を柱に進めていくことも良いかと思う。ただ、社会の中で自立していける力の育成を考えるなら、今の学校の独自性を保ちながら、地域連携を柱として、地域の力を教育課程に活かした教育を進めていくのがよいのではないかと思う。

■少子化の今だからこそ、教育に予算をつけてほしい。CSをはじめとするボランティアに頼ると、どんどんしんどくなる。プロに外注し、経済に還元することで、質の高い教育をつくっていく。

### 川上小

■地域の核として、統合は避けてもらいたい。

■他校との合同行事の実施。

■クラス替えをしているのと同じ効果があるような学校行事の取り組みをしていく。

■通学路の安全対策を講じる。

■地域の人ともっと濃い横の関係を作る。

■小規模校としての特色を生かした取り組みをする。

■クラスに同じ小学校出身者が少なくなるので、中学校になじめない子が出ない取り組みをする。

### 美加の台小

■現在行われているように、縦割りでのイベント学習は良いと思います。また、運動する機会を増やせるように、クラブ活動の時間ももっとたくさん取り入れても良いと思います。(PTA 関係)

■学校の小規模化=子どもの少子化が原因になっていると思います。個々を大切に、1人1人に目を向けるということが中心になっていると思います。それも大切なことなのですが、色々な人の中で生活する、沢山の人の中で対応して生きるという経験をするのができない生活スタイルになっているので、そういう環境で育むべき力に欠けてしまうことに危機感を感じます。自分の思いだけでなく、自然と相手の気持ちに気付いたり、時には我慢したりする中で、それでも人と関わって過ごす楽しさを感じる社会性が育つような教育(経験)が必要かと思います。(PTA 関係)

■小規模化において縦割りの充実。英語のグループ教育?(少人数ならではの)(PTA 関係)

### 南花台小

- 家庭教育が困難な状況である。児童も多い→時代が厳しくなっている→生き抜く力をつける。体験型学習(？)、自己解決、コミュニケーション能力を高める教育(教職員)
- 小規模化は進むが、担任1人当たりの児童数や校務は激増する。行事などを厳選し、効果的に時間を使う必要がある。(教職員)
- 学校の小規模化が進むことはしかたないが、学校に関わる人が少なくならないようにしたい。具体的は、保護者、教職員、地域の人々がいまより密になり、行事や取り組みに参加し、また企画、立案し一丸となった教育を進めたい。(教職員)
- 地域の方に何かを教えてもらったり、何かと一緒にできるような活動があったらいいと思います。地域の特色や昔遊びなどを教えてもらったり。いろんな年代の方々とかかわる場があるといいと思います。(教職員)
- 学校全体が大きな家族のようにお互い助け合えるような異学年交流(みんなで歌うとか…)。(教職員)
- 経済格差が激しいことが気になる。(教職員)
- たてわり活動の充実。少人数を生かした学力の定着。校外学習やゲストティーチャーなど、小規模だからこそすぐ出来る。(教職員)
- 学校の規模に合わせ、行事、校務分掌を精選していく。保護者にも了承を得たい。教員数が減る。更に平均年齢が下がっていることで、1人当たりの仕事分担が多い。とりあえず去年度の内容を踏襲するしかできない現状である。目の前の仕事をこなすのが精いっぱい、本来大切にしたい教材研究や子どもに向き合う時間が十分に取れていない。40人越えの単学級は厳しい。せめて、学年付き副担がほしい(2学年担当ではなく)(教職員)
- 小規模化が進む中で課題が多いと思うが、小中一貫教育に向かっているしかないと思う。市や教育委員会の考えがどうなのか!! 早めの意見交換が必要なのではないか!?(学校運営協議会)
- 少人数制を各教科で導入していく。学年間の交流機会を増やす。(PTA 関係)

## 長野中

- 少人数教育の充実(教職員)
- まずは、少人数クラスです。40名と20名では全く異なる教室になると思っています。ICT等の未来はまだ未知数であると思います。知的好奇心、自発的な好奇心をあげるのに、どれだけ利用できるかだと思います。個々の興味、関心を伸ばせるような選択性を含んだ体制がいいと思います。(教職員)
- 教科にもよるが、上級生・下級生が同じ教室で授業を共に受けられたら、たてのつながりも深まるのではないのでしょうか。(部活動をしなない生徒は異学年と接する事が少ない為)生徒数が少ないと体育祭などの行事が難しい面もでてくると思うが、市内の他校同士で行い、交流を深める。(PTA 関係)
- 体験活動を通じた人間性の育成。学校の放課後に経済面など心配なく安心して学べる学習環境への取り組み。(PTA 関係)
- 少人数クラス化等で個々にきめ細かい教育を行う。(PTA 関係)
- 中高一貫校。(PTA 関係)

## 西中

■大阪府下の体力・学力調査の結果が共に低いことから、小規模校ならではの基礎体力、集中力を育てるための取り組みを考えていく。学校全体での朝ラジオ体操、ストレッチ、読書など？（PTA 関係）

## 東中 教職員

■長期休業中は、部活動で忙しくなりがちだが、できれば自分の教科の研修に参加できる余裕が必要。特に若手教員には様々な研修に参加できるように、スキルアップ！

■協同学習、プレゼンテーション、読書・ビブリオバトル、IT教育、体験的教育、ボランティア活動。

■地元の学校として、地域の人々にもオープンな学校の雰囲気を作り出せるような物作りに取り組めたり、PTAや学校運営協議会の人たちと一緒に考えていけたら良い。

■子どもたちにとって、多くの教師に見守られている中で学校生活が送れることが安心であり、楽しみにつながるので、教員数の確保を優先させるべきである。

■漢検・英検など外部テストを評価に活用する。実技教科は小中同じで指導（この日は小学生も中学校に登校し、実技のみの授業を行う）。小学校に教育実習に行く中3が中2に、中2が中1に教える機会を作る。→教えることの難しさが分かり理解が深まる。

■美術・図工専科など専門性を生かして授業の質を向上させる。

■統合する。ただし、教職員の数は増やしてほしい。特別支援学級も増えているが、それ以外で対応していかなければいけない子どもたちが増えている。個別に対応できるだけの人員が欲しい。通級指導教室を各校に設置してほしい。

■自分で考え、解決していく力をつける教育。家庭教育もしっかりしてもらおう。

■小規模化により、子ども一人ひとりの特性に応じた教育ができるようになるが、体育などは充実しない可能性が高まる。その点においては、学年を統合して授業をしても良い教科もあると考える。異学年交流に加えて言語活動も充実できる可能性も高まる。

■統廃合していくしかないと思われる。そうしないと一つの部活動に所属する部員が少なくなり、大会に出場できないなどの影響が出てくる。これでは子どもたちのためにならない。

■地域連携をもっと進めていけばどうでしょうか。子どもの様子を一緒に見守ってもらおう。話せる関係を作ることで声をかけてもらいやすくなり、地域の方々にも知ってもらえるのでは？

## 千代田中

■以前と比べ、人数が減少するので、今まであきらめていた小中の子どもが関わる行事等をすすめて、「人とのつながり」「自己肯定感」「自己有用感」を高めたいと考える。（教職員）

■学校の小規模化に伴い、教員の数が減少していくと、今までできていた行事や学習の取組みができなくなっていく。行事の精選を本気で行うことや、余分な取組みを削らざるをえない。各校により、特徴のある教育活動を推進していくことも必要。今まで学校に投げられていた〇〇教育を地域や市、家庭で行っていく必要もあるのでは、と考える。小規模

## 化のメリットとデメリット（PTA関係者）

### 1. メリット

- ・様々な場面で意見や感想を発表できることが多くなる。
- ・ひとりひとりの個性や特性に応じた教育活動がしやすく、個々の能力や個性を伸ばしていくことができる。
- ・先輩後輩の縦割り学習を通して、異学年と関わる交流が増える。
- ・生徒の人間関係が密になり深まる。

### 2. デメリット

- ・友達が固定化し、人間関係がこじれると問題の解消が難しい。
- ・球技や行事、音楽活動のような集団活動で制約が生じる。
- ・新しいルールや学級文化、人間関係を作り上げようとする機会が少なくなる。

■1クラス20人程度にして、よりきめ細やかにより密着した教育をすすめるべきではないでしょうか？（PTA関係）

### 美加の台中

■美加の台中校区では、今後の教育を考えるにあたりポイントは2つあると思う。一つ目は、学校が、校区住民の地域への愛着を高め、町づくりの担い手となる人材をたくさん育て、すべての人に優しい町づくりを進めるための中核として教育活動を展開することである。そのために豊富な地域人材をさらに発掘し、各団体との連携をより一層深めていき、地域全体を元気にする学校行事・地域活動等をどんどん推進していく必要がある。二つ目は、変化の激しい将来を生き抜く生徒を育てるために、質の高い教育活動（授業改善）を推進することである。本年度より美加の台中校区では、「プログラミング的思考」の育成をはかるための授業をすべての教科で取り入れる研究を進めている。（授業改善）暗記・再生型から思考・発信型への転換、教師中心から生徒を中心とした授業への転換という2つの転換を意識した「主体的・対話的で深い学び」の充実を目指して行くべきである。（教職員）

## 小規模化が進む中で、どのような学校施設のあり方がよいか。

### 千代田小

- 小規模学級、少人数学級の授業ができる学校施設。
- 小中一体化した学校施設（異年齢の子どもの交流から社会性を学ぶ）

### 高向小

■児童数が減り学級数も減少して空き教室が増え、今は学年ルーム等として利用している。今後、地域の活動の場として活用していくことが必要である。地域の方からは子どもたちの活動の邪魔にならない様に工夫する必要があるという意見も出ている。（現在すでに、部屋の使い方についてのルール作りをおこなっている途中である。）

■今後、地域と学校との連携を深められやすいような、地域の拠点となる施設の使い方を検討したい。

### 三日市小

■空き教室を1つのフロアに固め地域（特に高齢者）の活動に使ってもらい、子どもと高齢者を繋げる場を提供する。1つのフロアに固めることにより防犯面でも大丈夫。空き教室を休み時間に開放し、子どもたちのコミュニケーションスペースとする。常にオープンな形にし、他学年とも交流しやすくする。(PTA関係)

■地域の間が気軽に使うことができ、子どもとのつながりを持ちやすくする場として用意する。(PTA関係)

■中学校に関しては自分の行きたい学校へ入学できる選択性を導入してみてはいかがでしょう？例えば東中学校区に設定されている上田町、楠ヶ丘などは坂のアップダウンを考えると南花台中の方が行きやすかったりします。他地域でもそのような場所があるのでは？一度地域ごとに入学希望する中学を聞きとるアンケートなどをしてみては良いのではないのでしょうか？(PTA関係)

■学校施設での各校区TV(インターネット)授業

将来的には、校区の合併、交通機関の整備(距離だけでなく、時間)も考える。

学校施設の解放 (三日市小学校区まちづくり協議会、自治会、町会、サークル等) (学校運営協議会)

### 加賀田小

■空き教室をもっと地域のイベントや集会等に利用すれば良いと思う。(PTA関係)

■加・石小の統合、加中と小学校が同じ校舎を使う(公民館も)。使わない校舎・グラウンドは、大学などの学校施設、運動公園、企業誘致など、無駄にならない様、熟慮が必要だと思います。(CS関係)

### 天見小

1. 天見の異年齢集団活動を参考にすれば、小学校と中学校が位置的に近い学校であるならば、同じ敷地内に存在する案

理由：児童と生徒間の交流が自然としやすくなり、中1ギャップという不登校などの課題に対処しやすくなるのではないか？

その結果、新たな施設活用が可能となる。

2. 南花台東・西小学校が統合されたように、可能な限り近隣の小学校が統合する案(PTA役員及び委員会、学校運営協議会、教職員をまとめたもの)

■今都心部では、働く場所の利便性でタワーマンションに子育て世代が流入し、児童が急増し、教室不足や放課後の居場所確保が難しいそうな。ひと昔前の子育て世代は、郊外の住宅地を求め、住宅開発と同時に新設学校も必要となった。その住宅地も子育てを卒業してしまい、近距離別居の児童達が学校を支えている。当天見地域も近距離別居等を可能にし、また共働き世帯のためにも放課後児童の受け入れ等を充実させ、子育て世代のUターンを容易にする行政手法を求めたい。30年前に児童数100名を超えていた当校が、一



世代経ったいま、地元児童が20名前後では天見の先行きが寂しい限りです。地域住民が意識を一つにして取り戻す覚悟が必要だと思っています。もう「そのうちいつか戻って来るで・・・」はダメなのです。児童たちの教育環境も、豊かな自然だけではなく、身近な地域住民が重要です。(学校運営協議会)

### 楠小

■ 休み時間（長休み・昼休み）に空き教室で地域の方にお手玉教室やけん玉教室などを開いてもらう（教職員）

■ 空き教室が増えることで、学年ルームなど、学年ごとに使用できる教室を確保する（個別対応しやすい）地域の人材を活用し、空き教室で昔遊び、放課後学習などを実施する。（学校側に負担、責任がないよう、市の取組とするなど方法は検討が必要）（教職員）

■ 空き教室の活用（地域の習い事 etc）お年寄りや保育園児との交流ができるように施設の併設(教職員)

■ ①施設一体型の小中一貫教育を推進

②河内長野市は地域連携、コミュニティスクールを市の方針とされているので、学校内にその拠点を設ける（放課後学習教室等）

③小学校に子ども園を併設（教職員）

■ 地域活性化の拠点として学校を活用する。

- ・地域に開放された学校－災害時に避難所となるので、有事の際に迅速な対応ができる
- ・空き教室の活用
- ・図書室、音楽教室、調理室等の開放、地域住民と児童との交流が広がる
- ・学校施設の管理は、地域住民の協力が必要(学校運営協議会)

### 石仏小

■ 学校の敷地でひとつの社会を体験できるような施設があればよいと思う。学校が知識技能の習得のみに偏るのではなく、それを実際に使えるような場面があれば良い。そのためには、敷地内に、学習の場、交流の場、体験の場など、様々な体験をできる場があればよいのではないかと思う。

ただ、学校として自由に活用できる教室等はある程度確保したい。

### 川上小

■ 学校は、やはり子どもが中心、教育に支障が出ない施設利用が大前提である。

■ 子、親が中心となり、交流を深められるような施設利用。

■ 少子高齢化が進む中、生涯学習教育機関としての計画的利用。

### 美加の台小

■ 放課後、学習教室のような、自主勉強ができる教室開放をしてもらえると助かるという案もありました。土地があるので、畑を作って野菜を育てたりするのも良いのではないか。また、放課後、学童の児童とそうでない児童がいっしょに遊べるように校庭開放もしてもらえると良いと思います。(PTA 関係)

■子どもや地域の方が、気軽に集まることができる場所。学校から帰ってきた子ども達の中には、友達と遊べず1人で過ごす子も増えています。友達を遊びたくても習い事でないかったり、親が不在なので、家で一緒に遊べない等、様々な理由から1人で過ごしていると思います。美加の台には児童館などもないので、放課後でも集まることができる施設(安全管理等の問題もありますが)として、使用することができれば、誰かと関わって生きていく嬉しさ、楽しさを経験させることができると思います。(PTA 関係)

### 南花台小

- 学年ルームを各学年に設ける。(教職員)
- 今後の学校施設は、単に教育の場としてだけでなく、地域の住民の活動拠点となる場として活用するのが良いと思う。(教職員)
- いつでもだれでも見学できる、見に来ていただける学校になるといいと思います。防犯面での問題があるのですが、地域の団体の方に教室などを使ってもらう?(教職員)
- 専用の教室が増えると良い。(書写用とか)(教職員)
- 防災の基点として、停電を減らしてほしい。学級園の所に、食べられる木を植える。(教職員)
- 各学年に学年ルームを。そうじがゆきとどかない。広すぎる?(教職員)
- 学校、地域、PTA、学校施設のあり方について、話し合いの場や意見交換の機会があればと考えます。(教職員)
- 空き教室を開放し、地域住民との交流を盛んにする。(PTA 関係)

### 長野中

- 施設の設備充実などきめ細かい指導、報連相の徹底(教職員)
- 施設として古く箱物でしかないので、根本的な改善(例えば建て替え)等なければ、なかなか利用する部分が少ないと思います。(教職員)
- 生徒と先生だけでなく、さまざまな年代の人達と関わり、社会全体で子供達を育てて欲しいと思います。空いている教室を地域で活動する講座、講演、小学生の学童保育で使う。又は空いている校庭のスペースで野菜などを育ててもらうなどして、学校に足を運んでももらう機会が増えると良いのでは。学校は避難場所にされているが、空いている教室を保存食、備蓄品の保管場所に使う。(PTA 関係)
- 地域の人々が安心して集える集会室、児童館(PTA 関係)
- 文化体育施設の併設(PTA 関係)
- 学校校舎を地域提供する。(PTA 関係)

### 西中

■地域の方に空き教室を利用してもらう。その時に購買パン・給食の利用も可能にするのはどうか。ゆっくりと喫茶感覚ですごしてもらう。⇔地域との交流 相互関係を築く。定期的にふるさと学習会をしてもらう。家庭科や理科の実習の時にお手伝いをお願いする(ミシン・調理実習・野菜の栽培・のこぎりの使い方など!?) (PTA 関係)

## 東中 教職員

- 各校に部活動指導員の部屋（職員室）を確保。
- 地元の子どもの健全育成のためのカルチャーセンターやコミュニティルームに学校施設を活用したら良い。
- 将来的に学校の統廃合の可能性が考えられる中、無駄に施設に投資せず、教員の育成に力を注ぐべきである。（クーラーを各部屋に設置せず、教員確保を優先すべき）
- 空き教室を地域の方に貸し出す。→地域の方に現場を見ていただける。教員の休憩室を作る。
- 小さな教室がもう少し増えると良い。相談室・カウンセリングルームの常設。
- 空き教室を有効利用すると良い。（少人数授業など）
- 廃校になった学校のグラウンド・体育館を部活動の練習や土日の大会等で使えるようにする。→試合会場等で練習できない日が減ったり、いくつかの部活が同時並行で狭いグラウンドや体育館を分けて使わずに済むことができる。

## 千代田中

- 子ども達は集団が大きいほど社会生活の勉強になるので、統合して、学校数を減らす方向で考えるべきだ。市の財政を考えても学校統合がいいと思う。（教職員）
- 美加の台小中→美加の台学園小中一貫校、南花台中と加賀田中を統合、西中と長野中を統合、まだ先の話なのかもしれませんが、こんな形になっていくのでは。（教職員）
- 河内長野市には平成26年3月末、高齢化率28.6%（65歳以上）、大阪府でワースト5位（39/43位）であると言われています。この高齢者つまり団塊の世代や定年退職者（有能な高齢者）の人たちを活用した学校支援組織を結成し、小学校・中学校と地域振興を考えます。地域が学校運営に積極的に参加し、学校側もそれを受け入れることによって、新たな教育活動、地域活動へとつながっていくと思われる。例えば、教員の長時間勤務の一員となっている部活動も、もっと地域を巻き込むことにより（部活動指導員）、試験期間中など教員の負担を軽減できる。また、千代田小学校での「ちよだ寺子屋」活動もその一環であり、中学校にも取り入れ、地域を含めた育成を検討してみてはいかがでしょうか。（PTA関係）
- 一人1台ずつパソコンもしくはタブレットを導入し、ICT教育の充実を図っていただければいいと思います。（PTA関係）
- 使用する教室にエアコンの設置を！！（PTA関係）

## 美加の台中

- 小中一貫校（義務教育学校）として、施設一体型学校を開設し、余った施設を英語活動の拠点として利用していくのが一番であると考えている。そのような教育（地位全体を元気にする学校、質の高い教育を提供する学校）を今後進めていくためには、小中一貫校が必然であると思われる。（教職員）